特集

実習記録も効率アップ!!

情報収集のヒケツ教えます

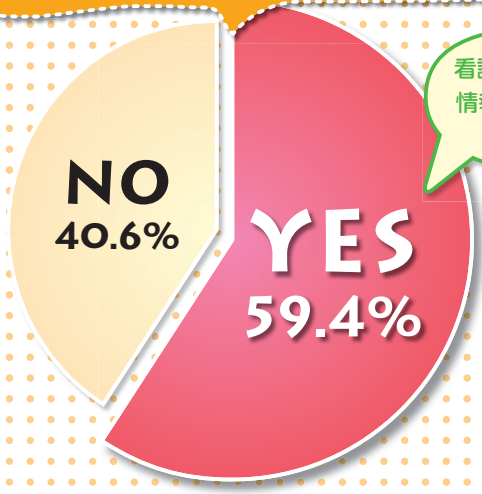




情報収集は臨地実習の最初の関門！ ここをスムーズにこなすことが実習成功のカギです。上手な情報収集のポイント、そして収集した情報をどう実習記録につなげるかを伝授します。

[編集協力]森内(もりうち)みね子(こ)
神奈川県立よこはま看護専門学校 看護科長

Q 実習の情報収集に悩むことはある？



看護学生の半数以上が情報収集に悩んでいるという結果に

「看護学生100人に聞きました☆アンケート」より
(Clinical Study調べ、n=138)

CONTENTS

p.34 実習の最初の関門は情報収集
p.36 上手な情報収集のポイント
p.42 朝の情報収集の流れ
p.43 情報収集Q＆A こんなときどうする!?
p.48 集めた情報を実習記録につなげるコツ



実習の最初の関門は情報収集

[執筆]須田雅美（すだまさみ） 神奈川県立よこはま看護専門学校 専任教員

実習で情報収集の難しさを感じたこと、ありませんか？

時々学生から、「**臨地実習で情報収集するのは、対象がどんな人で、どんな看護を必要とするかを考えるために必要だし大切だけど、難しいし、時間もかかる……**」という悩みの声が聞かれます。

皆さんは情報収集の大切さと同時に、難しさも感じながら実習を行っているのではないでしょうか。**“実習の最初の関門は情報収集”**と言っても過言ではありません。さあ、その関門を突破する方法を一緒に考えていきましょう！

そもそも看護過程とは？

看護過程とは、看護の立場から対象（患者さん）の健康にかかわる問題を明らかにして、その問題を解決していく過程です。要するに、対象にとって必要な看護を見出し、実施・評価して問題を解決していくプロセスのことですね（図）。このことから情報収集とは、対象に必要な看護を導きだすための最初の手立てということになります。

なぜ情報収集は必要なの？

看護という仕事は、多くの場合、患者さんと出会うところから始まります。患者さんと出会っても、その患者さんにどのような看護が必要なのかを導き出さなければ必要な援助は提供できませんよね。

“情報”を広辞苑で引くと、「ある事柄についての知らせ」「判断を下（くだ）したり行動を起こしたりするために必要な知識」とあります。つまり、看護師として患者さんに必要な援助を提供するためには、まず患者さんを知るところから始めなければならないということ。そのために最初に行うのが情報収集なのです。

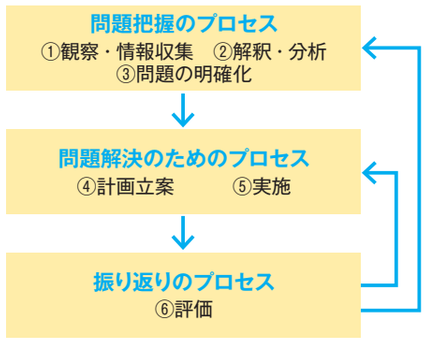


図　看護過程の流れ

看護に必要な情報とは？

では、看護に必要な情報とは何でしょう？ それには、主観的情報と客観的情報があります。

主観的情報とは、対象自身から発せられた情報をいいます。つまり、患者さんや家族、地域住民の気持ちや認識、発言など、直接対象に接して得られる情報です。これらは、自分が相手と接したときのありのままをみることが必要です。そして、五感をフルに活用して、対象の話した言葉、その表現に耳を傾ける、表情やしぐさ、思いを感じ取る感度と感性をもって接することで得られます。この場合、コミュニケーション技術を活用しましょう。

客観的情報とは、観察によって得られた所見、看護記録や体温表、医師記録、検査データなどです。これらは、看護の“根拠”となる重要な情報です。

電子カルテの場合は、いつでもパソコンからデータを見ることができます。紙ベースのカルテの場合は、医師の手書きの文字が解読不能だったり、略語や英語で書かれていることがあります。そんなときは、迷わず教員や指導ナースに聞きましょう。自分で調べることも大切ですが、タイムリーに情報をキャッチすることも重要です。

どのように情報収集を進めればいいの？

情報収集の手段の一つとして観察があります。観察とは、看護者自身の五感や直観力をとおして患者さんの事実をとらえるということです。「看護は観察で始まり、観察で終わる」といわれていますが、対象に関心を寄せなければ、観察はできません。

この“観察”についてフロレンス・ナイチンゲールは、「生命を守り健康と安楽とを増進させるためにこそ、観察をするのである」[1]と述べています。また、ヴァージニア・ヘンダーソンは「生命を保持し、健康を取り戻すために何を必要としているのかを知るために、彼の“皮膚の内側”に入り込まねばならない」[2]と述べています。このことからも、情報収集がいかに大切かがわかると思います。

情報収集した内容の信頼性は大丈夫？

情報収集の一つの手段として観察をあげましたが、観察は看護者の五感をとおして情報収集をするため、看護者自身の主観や先入観が入りやすいということがあります。また、看護者が見たいものしか見えなくなるということもあるかもしれません。そうして得られた情報はどうなるでしょうか？ もしかしたら、主観や先入観が入り込んで情報が事実とかけ離れてしまうことがあるかもしれませんね。

だからこそ、**①情報は必ず自分の目で確認する、②一つの情報で決めつけずにできるだけ多くの情報媒介物で情報を確認する、③事実に沿ってありのままを記録する、④事実とその情報から考えた自己の解釈を区別して記録する、⑤だれが見てもわかるように“5W1H”を意識して記録する**などの点に注意します。そうすることで、情報収集した内容が信頼性のあるものになります。



限られた時間の中でうまく情報収集するには？

たとえば、あなたが実習で肺炎の患者さんに出会ったとき、どこから情報収集すればよいのでしょうか？ **やみくもに、ただ漠然と情報収集すると、時間や労力も多く取られ、効率の悪い情報収集になりかねません。**そうならないよう限られた時間の中で必要な看護を導き出すための情報収集をするには、基準となる“ものさし”をもつことがポイントになります。もっといえば、“どの看護理論を用いて情報収集するか”ということです。

本校では、ヘンダーソンの看護論を用いて看護過程を展開しています。ヘンダーソンは看護師の独自の機能を「病人であれ健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復（あるいは平和な死）に資するような行動をするのを援助することである。その人が必要なだけの体力と意思力と知識とをもっていれば、これらの行動は他者の援助を得なくても可能であろう」[3]と述べています。この人間のとらえ方を理解したうえで、“対象の基本的欲求が充足しているのか、未充足なのか”という視点で情報収集していきます。

つまり、あなたが肺炎の患者さんに出会ったとき、正常な呼吸をするという基本的欲求が体力・知力・意思力をもって満たされているかどうかを情報収集すればよいということです。具体的には、十分なガス交換ができているか、安楽な呼吸を促進する方法を知っていて安楽な呼吸ができるかどうか、心地よい空気環境（温度、湿度、換気）が整っているかどうかということを、観察や患者さんとのコミュニケーションを通じてとらえていくのです。

このように、**限られた時間でスムーズに情報収集していくには、看護理論に基づいて実施していくと、全体像をとらえやすくなります。**

引用文献
1）フロレンス・ナイチンゲール著，湯槇ます・他訳：看護覚え書：看護であること・看護でないこと，改訳第6版，2000，p.210.
2）ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，新装版，日本看護協会出版会，2006，p.13.
3）前掲2）p.11.

上手な情報収集のポイント



［執筆］池田智子（いけだともこ） 神奈川県立よこはま看護専門学校 専任教員



「さぁ、情報収集しましょう」と言われたら、あなたはどこから情報収集を始めますか？
臨地実習は、看護学生にとって最大の学習の場であり、臨床は将来働く場でもあります。楽しく、充実した臨地実習にするために、どのようにして情報収集に取り組めばよいのか、基本的な方法について解説していきます。

準備するもの



- ☐ 健康な身体（健康管理はしっかりと）
- ☐ 対象（患者さん）への関心
- ☐ 研ぎ澄まされた五感
- ☐ メモ帳
- ☐ 看護過程の枠組み
- ☐ 事前学習の資料

情報収集の優先順位



❶ “生命に直結する身体面”について情報を集める

生命に直結する情報は、主にカルテを見ればわかります。

- 診断名・治療方法
- 検査データ・画像所見
- 体温表やクリティカルパス

❷ “患者さんが体験している症状”について情報を集める

患者さんが体験している症状の種類と程度を把握します。看護記録を見たり、直接ベッドサイドに行って観察します。

たとえば……

- 痛み
- 倦怠感
- 悪心・嘔吐
- 腹部膨満感
- 不安や受け止め
- など



❸ “生活に支障をきたしていること”について情報を集める

疾患や治療によって、今どのような症状が出現しているかを情報収集したら、❶それらのことが患者さんの生活にどのように支障をきたしているか、❷困っていることは何か、❸その人らしさが維持できているか、などを把握しましょう。また、今実施されている看護ケアについても情報収集しましょう。

- アナムネーゼ聴取用紙
- 看護計画
- 家族やキーパーソンから

情報収集の着眼点



1 事前学習を活用して意図的に情報収集を！



情報収集は、たくさんすればいいというものではありません。その情報が患者さんにとって必要か、そうでないかを見極める判断力が大切です。そのためには、事前学習が欠かせません。

たとえば、おいしいカレーを作りたいと考えたとき、どのような材料が必要か、手順はどうか、どのようなスパイスを使うと旨味（うまみ）が増すかなどと料理本や料理番組から情報を得ようとするでしょう。そして、そこで得た情報を手がかりに、買い物に行って材料を調達し、レシピどおりに調理してみるのではないでしょうか。

看護についても同じことがいえます。事前に受け持ち患者さんの疾患、治療方法など、患者さんを理解するために必要な知識を得ておくとイメージしやすく、実習中の情報収集をスムーズに進めることができます。事前学習を手立てにして観察やコミュニケーションを行えば、患者さんには今どんな症状があるのか、その症状が生活にどのような支障をきたしているのか、患者さんがどのような看護を求めているのかを把握することができるでしょう。

たとえば……

成人看護学実習の場合、年代別にどのような発達課題があるのか、社会的役割について考えるこ

上達のPOINT 1 「患者さんを理解したい！」という気持ちをもつことが重要



目の前の患者さんに必要な看護を提供するためには、前提として「患者さんを知りたい！ 理解したい!!」と思うことがとても重要です。情報は、実習の課題や自分の看護過程を進めるためのものでも、アセスメント項目を埋めるためのものでもありません。こうしたことは、何度となく言われることかもしれませんが、大切なことですので念頭に置いておきましょう。

「患者さんを知りたい！」と思ったら、必然的に課題への取り組み、進み具合も変わってくるはずです。「患者さんを知りたい！」という気持ちが、あなたをベッドサイドに向かわせるのです。

ここで、ナイチンゲールが唱えた「**三重の関心**」について思い出してみましょう。看護学校に入学してから耳にしたことがあると思います。ナイチンゲールは「**三重の関心**」について、「ひとつはその症例に対する理性的な関心、そして病人に対する（もっと強い）心のこもった関心、もうひとつは病人の世話と治療についての技術的（実践的）な関心である」[1)]と述べています。一般に使われる“関心”とは、「あることに対し興味をもって、より詳しく知ろうとする気持ち」です。それに対して看護における“関心”では、自分がこれからかかわろうとする患者さんに、知的な、そして心のこもった興味をもち、実践的・技術的により詳しく知りたいと思う「**三重の関心**」をもつことが必要です。

看護師が患者さんに対してもつ“関心”

- どんな患者さんかな
- 家族はいるのかな
- 何の目的で入院したのかな
- 入院するまでの経過を知りたいな
- この病気は、どんな症状が出現するのかな
- いつから症状があったのかな
- 病気や治療のことをどう受け止めているのかな
- 治療の内容は何だろう
- 治療の副作用は何だろう
- いつ頃退院するのかな

引用文献 1）湯槇ます監，薄井坦子・他編訳：ナイチンゲール著作集 第二巻，現代社，1974，p.140.